しい楽しい旅となりました。帰国後「つる」さんの感謝ゴルフコンペに参加させていただきこれ又、北クラブメンバーでスコア関係なく楽しませていただきました。斉藤さんに感謝して。

中條耕二君　当三条ロイヤルホテルで昨日第４分区の人道的プログラムの研究集会、45名の出席で盛大に行われ、有意義な学習会でした。尚10月26日（土）衆楽館にて知的障害者について学習会を行いました。関係の方々に心からお礼を申し上げます。

駒形実君　ＢＯＸ協力、坂本さんの卓話楽しみにしております。

落合益夫君　ＢＯＸに協力。

丸山勝君　ノーコメント

斉藤正君　寒さが身に染みる季節になりました。風邪には充分気をつけなければ。

佐藤弘志君　久しぶりの例会出席です。今日は坂本さん御苦労様です。

阿部勝子君　坂本様本日の米山月間卓話宜しくお願い致します。

小林満君　米山月間です。坂本委員長に敬意を表して。

梨本建夫君　人道的プログラム研究会の勉強会では出席の皆さん誠にご苦労様でした。又中条ＡＧにはとりまとめが大変でご苦労様でございました。

卓　　話：　「米山月間」　坂本委員長

米山月間のこの日は年に１回なので今日はニコニコは遠慮してくれないかと小林委員長にお話して米山の寄付にお願いしようと思っていたのですが、先程のＢＯＸの報告を聞いていたら随分沢山集まってしまい失敗したなと思いました。もうちょっと強く遠慮してもらうことをお願いすればよかったと思います。今日の目的は米山奨学に対する理解を皆さんから求めなければいけないのですが、１人あたり18,000円の金額目標があります。３月頃まではなんとか達成したいと思っております。しかし理解に関しては私自身もっと勉強しなければいけないのですがその気がないのです。その気にならない人間が皆さんに悟り聞かせようと思っても無理です。この件に関しては私がこれ以上話さない方が米山奨学に対する寄付金が集まるように思いますので「米山奨学月間」はこれで終わりにさせて頂きまして後は勝手に話させて頂きます。

事業継承

今まで自分がその人生において心血を注ぎ込んで築いてきた非常に大切なものを、別の人間に譲ることです。まさに命をかけて築き上げてきたものを譲るわけですから、最も愛する人物に継承してもらうことが最大の喜びなのかも知れません。単純に言えば事業継承は「息子」が受け入れてくれるなら最適なのでしょう。

さて、会員の皆さんの中にはご兄弟で経営を行っている会社がたくさんあると思われます。私共もご承知のように３兄弟によって経営の舵取りを行っております。

「仲の良い兄弟」

私達３兄弟は、社業の発展もあって毛利元就の３人の息子達の「３本の矢」のようだとよくお世

辞を頂きます。なるほど、若い頃の３兄弟はまさに、「３本の矢」であったと思います。３人が皆、父の仕事を手伝いたいと思い、業界で名のある会社にしたいと考え、一生懸命努力したものでした。めざすものが大きく、たくさんありました。強くて大きな会社をつくりたいという同じ目標をもっている訳ですから兄弟のみならず家族も含めて一致団結できたものです。その結果、事業環境にも恵まれて成長を続けることができました。周囲からは「こんなに仲の良い兄弟」とうらやむ声も聞かれたくらいでした。

「仲の悪い兄弟」

しかし、３兄弟もそれぞれ人間として、経営者として、成長から成熟への段階に入って来るにつれて、それぞれの個性が表に出てくるわけです。経営者として同じように利益追求するにしても自分流の経営哲学、人生哲学が芽生えてくるものです。

一方でかってはひとつの家庭のなかにいた兄弟が、今ではそれぞれが家族の長となっている現実があります。父親となっているわけけです。当然、人はまず第一に妻や子供、あるいは両親のことを思いやるでしょう。妻や子供も父親のことを少なからず頼りにするものです。兄弟のことを１番に考える人間は非常に稀なはずです。３兄弟は三つの家庭の長となり、家族単位の動きが中心になるのです。場面によっては「こんな仲の悪い兄弟見たことがない」と思われることもあったかもしれません。そうした経緯を経てきた３人が今後は事業継承を考え実行に移していかなくてはなりません。

「永遠に存続する企業」

３人の人生哲学、経営哲学のなかで調整をつけ、しかもそれぞれの３家族の理解も得られるような選択をしなくてはなりません。誠に複雑かつ多くの問題をかかえた事業継承と言わざるを得ません。

中央に目を向けますと、東京証券取引所に上場する企業のうち、昨年上場廃止となった企業は４３社、今年に入ってからは７３社と過去に経験したことのない数字が記録されております。事業環境の厳しさもさることながら、トップのバトンタッチがうまく機能しなかったことによってそうした事態が発生した面も否定できません。

「企業は永遠なり」という言葉があります。経営者は、いつまでも滅びない強い会社を作り上げようと毎日、汗を流しているわけです。少しでも足を止めると弱肉強食の世界へ引きずり込まれていく可能性が非常に高くなってきています。

会社がつぶれるということは、多数の方々に多大なご迷惑をかけることになります。時代の流れや会社の規模によって事業継承の目的や形態も当然変わってきます。

事業継承の目的を「永遠に存続する企業」としてとらえるならば最初から後継者ありきでは通用しないということであります。３人の兄弟が経営者として成熟したことによって、そのような価値観を共有できるようになりました。そのことによって事業継承の道は自ずと開けてくると考えております。以上です。ありがとうございました。

第2560地区第４分区人道的プログラム研究会報告　　佐藤　啓策

日時　14年10月28日　午後５時より８時30分まで

場所　三条ロイヤルホテル